

「そうだ、車をなおそう」 古い車の話 2

こたろう

第4班 月報委員

材木屋さんの中にも車好きな方は多くいらっしゃいますが、その中でもかなりマニアなお客さんがコブラを買われたと聞き早速見に行って来ました。

コブラという車は、イギリスのACカーズがフォードのV8エンジンを載せレースでフェラーリに勝つために作った車だと記憶しています。

20年くらい前に私も専門店でコブラを見に行ったことがありますが、あまりの爆音にこれは乗れないと思い購入を断念しました。実物で見るコブラは、大迫力で流れる曲線が素晴らしくカッコイ

究極のデザインで圧倒されました。これなら信号待ちで隣にランボルギーニに並ばれてもコブラの迫力にはかなわないでしょう。

15分ほど運転させてもらいましたが、クラッチも特に重くはなく意外に発進は楽でした。低回転から力がありジェットコースターの発進の様な過激な加速でした。

サイドから出るマフラーの爆音のため住宅地ではアクセルをベタ踏みはできませんでしたが、屋根は疎か窓すら無いコブラに乗ると、この車はまさに早く走るためだけに作られたことが良くわかりました。



久しぶりに乗った超過激な車。コブラのおかげで、年齢を重ねるごとに冷めかけていた私の車熱が再び湧き上がって来てしまったのです。

今から35年ほど前、まだ20代の頃に買ったユーノスが車庫の奥に眠っているのではないかな。

「そうだ、車をなおそう」 これをもう一度復活させてやろう。

12年前にナンバーも抹消し置きっぱなしになっていましたが、バッテリーを新品に交換したら一応エンジンはかかりました。さすが国産車だ、凄いです。

それからの休日はキッチンハイターでひたすら汚れやサビを取る作業の日々が続き、自分で出来る部分は再塗装もしました。内装のパネルは古いプラスチックがベタベタになっていたのでも木や紙を貼り付けて作り直しました。もうこれはプラモデルを作る感覚です。

そこそこきれいになったのでナンバー再取得と車検を通すための整備はマツダにお願いすることにしました。とにかく走れるようにしてくれと。

キャリヤカーに載せ持ち込むことにしました。

しかしここからが35年も前の古い車を復活させるのに予想をはるかに超える事態に進んでいく始まりだったのです…

この続きはまた次の機会があれば報告させていただきます。

